

新鮮な魚を買い求める買い物客



募金箱にお金を入れる買い物客



松原海岸を清掃する参加者たち



街角スケッチ

あなたが写っていたらご連絡ください。
写真を差し上げます。
広報広聴課 ☎ 22 - 8112



朝市で地産地消

6月20日 晴明の朝市と七夕まつり

博物館通りで晴明の朝市が行われました。今回は七夕まつりも同時開催され、たくさんの笹飾りで彩られました。新鮮な魚介類や地元産の野菜などが並んだ会場は、朝の8時にもかかわらず買い物客で大賑わい。目当てのものを手に入れた買い物客は「地元の良いものを安く買える、このような朝市があるのはうれしい」と両手に袋をさげながら、満足そうに話していました。



都城市・えびの市へ義援金

6月16日 宮崎県口蹄疫被害に伴う街頭募金活動

口蹄疫被害が拡大している宮崎県の都城市とえびの市に義援金を送るため、アル・プラザ敦賀店前で募金活動を行いました。敦賀市は、都城市・えびの市など全国青年市長会会員市と災害時相互応援協定を結んでいます。この日は、赤十字奉仕団の団員と市職員が、募金箱を手に買い物客らに募金を呼びかけました。集まった義援金は、市役所の市民ホールに設置していた募金箱に寄せられたものと合わせて、両市へ送りました。



1200人の力を合わせて

6月6日 クリーンアップふくい大作戦

6月の環境月間にあわせて、「市民総ぐるみ環境美化運動・クリーンアップふくい大作戦」の一環として気比の松原で清掃作業が行われました。この日は天候にも恵まれ、各種団体やボランティアなど約1200人の市民が参加。老若男女を問わず、海岸や松林をきれいにしようと、ごみ袋やバケツを片手にごみ拾いに励みました。参加者は「松原は県外からのお客さんも多い。きれいになることで、お客さんが増えてくれるとうれしい」と話していました。

窯入れを体験する子どもたち



行われた講演の様子



興味深げに南極の氷に手を伸ばす児童たち



倒れた乗客を救出する化学防護服姿の消防署員ら



初めての炭作り

7月3日 木育学校

子どもたちに、森林や林業へ興味を持ってもらうことを目的とした「木育学校」が行われ、子どもと保護者合わせて24人が参加しました。1回目となる今回は、炭焼きを体験。実際に木を切り倒すところの見学や、まき割り機を使った炭の元になる木の加工、窯入れなど、炭焼きの工程を学びました。炭は3週間ほどで完成し、2回目の木育学校で使われる予定です。



敦賀の新しい顔を目指して

6月25日 駅舎改築市民フォーラム

「駅舎改築市民フォーラム」がきらめきみなと館で開催され、市民約130人が参加しました。フォーラムでは、設計を監修する東京大学大学院准教授の千葉孝氏が駅舎改築の計画案を説明し、参加者と意見が交わされました。参加者からは、「雨や雪の日にも明るく映えるデザインにしてほしい」「街全体の景観に合った駅舎に」「温かみを感じられる。この設計で進めてほしい」などの意見が出されました。



南極からのおみやげ

6月15日 「南極の氷」贈呈式

海上自衛隊砕氷艦「しらせ」が、南極から持ち帰った氷の贈呈式が、西小学校で行われました。約9キロの大きな氷を受け取った児童代表の小島亜素佳さんは「何万年も前の貴重な氷をいただき、ありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。児童たちは、見たことのない真っ白な氷におおはしゃぎで、感触や冷たさを確かめたり、氷の中の空気をはじける音を聞いたり、興味津々の様子でした。



化学テロから市民を守れ!

6月11日 消防総合訓練

6月19日・20日に福井市で開催のAPEC（アジア太平洋経済協力会議）エネルギー大臣会合を前に、市防災センター駐車場で化学テロを想定した訓練が行われました。走行中の路線バス内で有害物質がまかれたとの想定のもと、敦賀美方消防組合の消防署員や市職員ら約70人が参加。緊迫した雰囲気の中、化学防護服を着た消防署員らが、乗客の救出や除染活動などを行いました。